

研究・調査報告書

報告書番号	担当
201	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Diagnosis of fetal alcohol spectrum disorders: a validity study of the fetal alcohol syndrome checklist. 胎児性アルコール・スペクトラム障害の診断：胎児性アルコール症候群診断チェックリストの妥当性研究	
執筆者	
Burd L, Klug MG, Li Q, Kerbeshian J, Martsof JT.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol. 2010 Nov-Dec;44(7-8):605-14.	
キーワード	
胎児性アルコール・スペクトラム障害、胎児性アルコール症候群診断チェックリスト、妥当性	
要旨	
目的： 胎児性アルコール・スペクトラム障害は発達障害、先天奇形および死亡の重要な原因である。胎児性アルコール・スペクトラム障害の診断方法の妥当性研究は十分ではない。本研究では胎児性アルコール症候群診断チェックリスト (FASDC) の妥当性を検討した。	
方法： ノースダコタ州在住の 658 人を対象として FASDC スコア間の一致度、臨床診断との一致度、およびアメリカ医学研究所(IOM)の胎児性アルコール症候群診断基準との一致度を検討した。全症例はノースダコタ州が支援する遺伝診断のための遺伝/奇形外来で診察を受けた。臨床診断と FASDC スコアを比較して FASDC が胎児性アルコール・スペクトラム障害、部分的胎児性アルコール・スペクトラム障害および非胎児性アルコール・スペクトラム障害に分類判別可能かを検討した。比較検討は単変量解析と飲酒暴露因子および胎児性アルコール・スペクトラム障害病型のデータがある場合と無い場合に分けたロジスティック解析を用いて行った。	
結果： FASDC が胎児性アルコール・スペクトラム障害と非胎児性アルコール・スペクトラム障害に区別する能力は優れていた(正確度 99%, 感受性 99%, 特異性 99%)。病型と暴露因子を用いたロジスティック解析では胎児性アルコール・スペクトラム障害は正確度 82%、感受性 85%、特異性 80%で判別できた。病型と暴露因子を用いずに (母親の特徴、出生記録、人口学上データなどの) 他のデータを用いることによって非胎児性アルコール・スペクトラム障害を胎児性アルコール・スペクトラム障害から正確度 78%、感受性 64%、特異性 81%で判別可能であった。	
結論： 全ての診断手段は臨床使用する前に妥当性の検討を行うべきである。FASDC スコアは専門医の判断と同等である。この診断手段は臨床現場や発症登録並びに研究目的で胎児性アルコール・スペクトラム障害を診断するのに有用である。	